

11月の出題傾向

知識問う問題が増加

国語

で、接続詞や修飾・被修飾の関係を問う知識問題が二つ出された。

大問の構成は昨年度の後期試験からの変更点は見られず、大問七題の構成になっている。今年度の特徴は知識を問う問題が増えていることである。

大問一は聞き取りの問題で、今年度は昨年度と異なり設問が問題用紙に載っている形になっている。この方が受験生には解きやすいのではないかとと思われる。ただし、小問四は難しい問題であった。

大問二・三は漢字の読みと書きの問題で、難易度の高い問題が見られた。

大問四は説明文の読解問題

時間配分難しい設問

数学

たどった受験生も多かった。しかし(2)では底辺の長さの比から三角形の面積を求めるものでやや複雑だ。

昨年度同様大問五題構成で、内容やレベルなども昨年度後期とほぼ同じであった。大問一は計算問題で、小問六題構成。ひじょうに基本的な問題であった。

大問二は小問集合で、小問五題構成。前期では難度の高い作図が出題されたが、今回は基本的なものであった。

大問三は二次関数と図形についての問題。(2)はかなりの難しき、時間をとられた受験生も多かったのではないかと。

大問四は平面図形。(1)の証明も比較的易しく、正解に

文法整序問題は難解

英語

受験生もいたのではないだろうか。

大問の構成は昨年度の後期試験からの変更点は見られず、大問六題の構成になっている。

大問一は聞き取りの問題で、昨年度と同様、平易な問題が多く得点し易かった。

大問二は文法問題であった。語形変化二題・整序問題三題と例年通りの問題構成であるが、整序問題は一つの問題に複数の知識を用いて解かなければならず、かなり難易度が高くなっている。

大問三は英作文である。問題文の「都市」を「その市」と間違えて読みとってしまう

全体としては、聞くこと・読むこと・書くことがバランスよく出題されている。今年度の平均点は、昨年度後期並みかそれよりやや下がるのではないかと。

全体的に易しい印象

理科

大問五は遺伝の問題。遺伝の規則についてしっかりと理解しておけば得点できただろう。大問六は前線と天気について。前線の通過による天気の変化や気団の性質など基本内容が中心であった。

前期より大問数が一題減ったが、小問数は変化していない。出題内容は前期同様、物理・化学・生物・地学からバランスよく出題されている。

大問一は陰極線について。教科書の実験の図をよく理解しておく必要がありそう。

大問二は植物の体のつくりで平易。大問三は中和反応について。暗記だけでなく、イオンの数などのように変化していくかを問われていた。大問四は火成岩のつくりについて。斑晶と石基のつきりについて。斑晶と石基のつきりについて。平均点は前期と同じくらいになりそう。

教科書の実験を隅々までよく見ておく必要がありそう。ただ、難しい問題はあるものの全体としては易しい印象。平均点は前期と同じくらいになりそう。

図や写真多用の傾向

社会

大問四は前近代史。カードを使った出題は昨年度同様だが、図や写真が多用されているのが印象的だ。ここでも年代整序が出題されている。配点が三点増。

昨年度後期と大問構成は変わらないが、小問構成と配点が変わっている。大問一は千葉真に関係した総合問題で、昨年度は「房州うちわ」が題材となったが、今年度は東京湾をはさんで南関東についての問題。年代整序が出題されている。配点が一点減った。

大問二は日本地理。中部地方について。このように地方をしばった出題は近年珍しい。

大問三は世界地理。南極を中心とした正距方位図法をもとに南半球の国々に光をあて

大問四は政治。憲法第十五条の一部を書かせる記述問題が出題されている。全体として、図・写真・表などを使ったビジュアルな出題が目立つ。難易度は昨年度後期並だ。

(株)総進図書

(白石 幸司)

(金坂 嘉一)

(金坂 智行)

(幸田 光広)

(中川 美與吾)